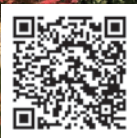


大内氏と山口市。



アートと山口市。



おすらい
やまぐち

彩都山口



おすらい
やまぐち

やま ぐち し み りよく
みんなでおいさらい！ 山口市の魅力。



YCAM

 **ワイカム**
YCAM

おそろいやまぐちMAP



しやまぐちさんだいまつ
知っちゃう!? 山口三大祭り。
山口三大祭りは、大内氏が先祖の冥福を祈るために始めたと伝わる「山口セタちょうちんまつり」と大内弘世が京都から勧請した八坂神社の例祭「山口祇園祭」、そして、古熊神社の御神幸祭「山口天神祭」!

ちょうちんまつりは8月6・7日、
祇園祭は7月20~27日、
天神祭は11月17~25日に開催!

にほんだいひょう
日本を代表する現代アートの拠点。
2003年に開館した日本の代表的な現代アートの拠点「山口情報芸術センター(YCAM)」。展覧会や公演、ワークショップなど多彩なイベントを開催。

みかけたら手を振ってみよう!
SLやまぐち号
昭和40年代、全国の蒸気機関車が廃止される中、1973年に山口線からも姿を消したSL。地域の熱い想いにより1978年に復活したのが「SLやまぐち号」。

1 高さ8メートルの白ぎつね!
白ぎつねが温泉で傷を癒していたことから発見されたと伝わる湯田温泉。湯田温泉駅前の巨大白ぎつね像をはじめ、温泉街にはぎつね像が点在!



2 全国的にも珍しい「手湯」が楽しめる!
湯田温泉街には6つの足湯ほか、全国的にも珍しい「手湯」もある! 湯田温泉観光案内所前と源泉が湧き出る様子を観察できる温泉舎では飲泉も。



3 当時は全国で唯一! 伊勢から神霊を勧請。
大内義興が伊勢から神霊を勧請して創建した山口大神宮。当時、勧請を許されたのは全国でここだけ! 室町時代における大内氏の隆盛が伺える。



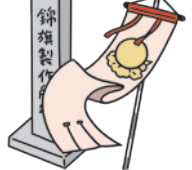
4 維新の扉をノックしたのはここ!
幕末の1864年、毛利敬親が萩から山口へ藩庁を移転した際に建てられた「山口政事堂」の門。1870年に現在の地で再建された。県庁側の脇門は常時開かれ、今でも通り抜けできる。



5 大正時代に建てられた国の重要文化財!
旧県庁舎と旧県会議事堂は、西洋の近代的な建築様式と伝統的な建築洋式が融合した貴重な建物。空から見下ろすと旧県会議事堂は「山」、旧山口県庁は「口」の形に!



6 官軍の「錦の御旗」はここで作られた!
1868年の鳥羽伏見の戦いで官軍が掲げた「錦の御旗」は、品川弥二郎が京都西陣で材料を購入し、この地にあった養蚕所の一室で製作されたと伝わる。



7 山口を流れる「京都の鴨川」!?
春は桜、初夏はホタルと四季折々の風物詩が堪能できる川。室町時代、京を模したまちづくりをした大内弘世が鴨川に見立てた川としても知られる。



8 「学都山口」はここからスタート!
長州藩士の上田鳳陽は、のちの山口明倫館となる山口講堂を創設。ここには山口明倫館の兵学寮があり、維新の十傑の一人、大村益次郎も指導。ちなみに山口講堂は山口大学の根源にあたる。



9 その昔、山口駅があった場所。
JR山口線が誕生する以前、山口市にはたった4年しか存在しなかった幻の鉄道が! かつて山口駅があったこの場所は、一の坂川交通交流広場に。



10 総理大臣などの揮毫がずりり!
1877年創業の料亭の建物を移築復元した観光文化交差点。100畳もある大広間には伊藤博文や山県有朋など近代日本史にその名を刻む偉人たちの揮毫が並ぶ。



山口市に文化芸術施設が集結!
夢を育む土壌は整っているぞ!
山口市は文化芸術都市!
県立美術館、県立博物館、県立図書館、文書館、埋蔵文化財センターと、山口市には文化芸術施設が充実! しっかり利用すれば、研究者やアーティストへの道が拓けるかも…!?



A B
やまぐちし
山口市にある続日本100名城! 大内氏館・高嶺城
室町時代から戦国時代にかけて、中国地方西部から北部九州を治めた守護大名・大内氏の居所であるとともに政治的拠点だった大内氏館と、その西方に位置する鴻ノ峰を利用した壮大な山城・高嶺城は、ともに国指定史跡・続日本100名城に!



あ い う え お
山口県立山口博物館
山口県埋蔵文化財センター
山口県立美術館
山口県立山口図書館
山口県文書館

